UDLってどんな風に見える？UDLギア(歯車)の仕組み

UDL（Universal Design for Learning）って何？と問うことは，夕日って何？と問うことに似ています。ちょうど夕日が毎日違って見えるのと同じように，UDLも行うたびに違って見えます。夕日の見え方は，地形と天候に左右されます。UDLの見え方は，場面，教材，そして人間関係の複雑さによって違います。では，私たちは，それが夕日やUDLであることをどのように認識するのでしょうか。どちらも，共通した構成要素を含みます。夕日には太陽があり，美しい色があり，一日の終わりを告げるものです。UDLにも共通した構成要素があり，それはこの図のような4つの歯車で表すことができます（EPUBでもご覧いただけます）。

この4つの歯車は，指導者[1]のもつ「マインドセット」，「スキル」，「実践の仕方」，「UDLガイドライン」から得られる指針を表しています。どの歯車もUDLの要となるものですが，UDLの適用を成功させるには，4つの歯車がうまく連動することが大切です。歯車の歯は，歯車が噛み合い，動き続けるために必要です。一つでも歯が欠けていたら，歯車は滑らかに動きません。歯車が噛み合わず、噛み合うことで増幅される力を活用することができないからです。このような場合，UDLの適用はうまくいきません。

歯車のそれぞれの要素は，インクルージョンとUDL実践のベストプラクティスに関する国際的な研究、書籍、その他の文献に基づいています。歯車の中心と歯の部分をマウスでクリックすると、詳しい説明を見ることができます。

歯車はタペストリーとどのように関連しているのでしょうか。

タペストリーと歯車は，異なる角度からUDLを見ています。タペストリーは，UDLを学んでいる学習者[2]が，UDLの豊かさを織りなす全ての糸（要素）を理解するのに役立ち，歯車はUDLをどのように行うのかを理解するのに役立ちます。

The UDL Gears

Loui Lord Nelson, Ph.D.

夕日が毎日違って見えるように，学びのユニバーサルデザイン（UDL）も行うたびに違って見えますが，どちらにも共通した構成要素があります。UDLの構成要素について知りたい方は「マインドセット」「実践」「スキル」それぞれについて確認して、キー概念について調べてみてください。

マインドセット

UDLに忠実なマインドセットを持つ指導者

- 全ての学習者は学ぶことができると信じる
- 学習者一人一人を尊重する
- 全ての学習者に高い期待を抱く
- すべての学習者は，仲間とともに学ぶべきだと考える
- UDL実践にあたる指導者も学習者であると自覚している
- すべての学習者のニーズに共感する
- 新しいことに挑戦し，失敗し，振り返り，修正し，また挑戦する必要があることを理解している
- UDL実践の伴走者を見つける
- 自分の学びをさらに高めるために，絶えず新しい方法を模索する
- 学習者同士の関係を良好にするための方法を絶えず模索する
- 学習者の保護者 と良好な関係を築こうとする
- すべての学習者が居場所であると感じられるようにする
- 学びのバリアは，指導や学習環境の中にあることを理解している

- 学びのバリアは，学習者の中にはないことを理解している

スキル

UDLの考え方に忠実なスキルを持つ指導者

- 新しいスキルを学び，応用できるように，他者と協力する
- 多様な学習者とつながりをもって，指導する
- インクルーシブな（どの学習者もとりこぼさない）指導を行う
- 学習者が直面する可能性のある感情面あるいは学業面のバリアを事前に把握する
- 望ましい成果を重視した指導のゴール/目標を設定する
- 学習者が理解し，達成できるような明確な目的や目標を設定する
- 学習者がゴール／目標を達成できるように，多様な教材や方法を用いる
- 多様な指導技術，方略，方法を用いて指導する。必要に応じて組み合わせて使う。
- 学習者が学習のゴール／目標を達成するのに役立つ選択ができるような指導を心がける
- ゴール／目標に沿った形成的評価を行い，学習者の知識やスキルを多様な方法で測定する
- すべての学習者がゴール／目標に向かって成果を上げられるように，形成的評価の結果を活用して方法や教材を改善する
- 生徒の興味，取り組みの持続，やる気を高めるために，形成的評価の結果を活用する
- 指導中であっても，必要に応じて指導方法や教材を修正し，その時々のバリアを最小限にする
- 概念、スキル、課題、内容が大きく難しい場合は小さなステップや構成要素に分解する。必要に応じて，別の説明や提示の仕方をする
- 目標や目的に沿った総括的評価を行い，学習者の知識やスキルを多様な方法で測定する

実践

UDLに忠実な実践は，指導者が以下の取り組みを行うのを助ける

- インクルーシブな（どの学習者も取りこぼさない）実践を行う
- すべての学習者のニーズに応じて計画をたて，すべての学習者のニーズを満たすような指導を行う
- すべての学習者を通常教育に迎え入れ，歓迎する
- 学業面のバリアをあらかじめ特定する
- 学業面のバリアを最小限にする方法と教材を用いる
- 通常教育で，誰もが公平に学習できるようにする
- 学習者が学業以外で遭遇するバリアを特定し，学業のバリアへの対処方法と教材を活用する
- 社会的/情緒的なバリアをあらかじめ特定し，社会的/情緒的/文化的なバリアを最小限にする方法と教材を用いる
- 通常の教育において，誰もが公平に社会参加できるようにする関わりを、一貫して提供する
- 指導の改善の手段として，形成的評価を用いるようにする
- 多様な方法で知識や技能を測定するような総括的評価を行うようにする
- 学びの達成度を説明するときには、UDLの「学びのエキスパート」という表現を強調する
- 学習者の声に耳を傾け，取り組む

UDLガイドライン

CASTのUDLガイドラインは，指導法や教材の選定や評価を行う際の意思決定の助けとなる。

重要な用語

学習者とは，学習に取り組むすべての人のことであり，年齢は関係ない

バリアとは，学習者の学びを阻むようなあらゆる行為，物理的な物，リソース，物やリソースの不足，信念の強要のことである

「学びのエキスパート」という用語は、自分の持つ幅広いスキルや、生まれ持った特質がUDLに忠実な授業や学習環境を体験する中でさらに培われる学習者を説明するときに使います。学習者は、目的を持ち、やる気があり、リソースや知識を活用でき、方略を使いこなし、ゴールに向かって舵取りできるようになります。

指導者は，あらゆる分野の教師，ファシリテーター，製品設計・開発者，教授，講師が含まれ，指導を計画し提供するすべての人を意味する

引用元 Nelson, L. L. (2023, May 24). The UDL Gears. https://theudlapproach.com/theudlgears/